

モータースポーツをみんなのものに 「第8回バリアーフリーカート走行会」体験記

Thinking of Life

もっと広がれ! 身障者と健常者が一緒に楽しめる カートの世界



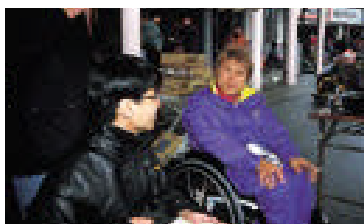
午前中はあいにくの曇り空。だが参加者は元
気一杯。写真はF Hクラスのデモンストレーション
レースの一場面。ドライバーが装着されている以外
イマル車との外観上の違いはほとんどない。



本文 / 神領 貴 (編集部) 写真 / 佐久間 健



相沢美季さん(22歳)は、18歳の時に、同乗中のクルマの事故により、下肢に障害を負う。カートを本格的に始めて1年あまりと言うが、その腕前は男性に混じっても遜色ない。当日のイベントには短大の仲間が応援に来ていた。



北関東オーエックスエンジニアリング社長の生方潤一さん(写真・右)はかつて二輪レースで活躍していた。しかし、不慮の事故で下肢が不自由な。自らもカートに乗るが、「カートの楽しさを体の不自由な人にもぜひ体験してほしい。そのための努力は惜しみません」と決意を語ってくれた。本誌アドバイザーの秋谷幸彦(写真・左)も右半身が不自由ながら、カートへの思いは同じ。「下肢障害者用だけでなく、それぞれの障害に応じたカートがあるともっと参加しやすくなる」とやる気まんまん。



F Hクラスで腕を競い合うエントラントの面々。カートへの熱い思いを語ってくれた。

カートはレンタルが可能。とくにこのイベントでは保険料1000円を払えば、誰でもカートに乗ることができる。手動タイプはステアリングに向かって右レバーがブレーキ、左がアクセル。どんどんおもしろくなると、やはり購入したくなるが、その場合でも本体は20万円くらいから手に入る。手動への改造費は10万円程度だ。

問い合わせ
北関東オーエックスエンジニアリング内
カート事務局へ。
0270-30-5640
E-Mail : kart-ox@d5.dion.ne.jp



チームマガジンXのスタッフ。ちなみに順位は聞かなくてください。

「ゴーアンドストップ」と呼ばれるこのレースの特徴のひとつがドライバー交替。1時間耐久で3人のドライバーが乗るが、身障者との交替を想定して、それぞれビットタイムは2分間与えられる。



レーススタート前に作戦を練るチームマガジンX。スタートドライバーは現地で合流した英 徹さん。東京電力に勤める彼は先天性の病気により下肢が不自由。だが、その走りはすばらしいものだった。

実はマガジンXもブレイングカートのデモンストレーションレースに参加した。写真はスタート直前の風景。健常者と身障者との混走のため、健常者は身障者がスタートした後に「ル・マン式スタート」となる。



11月3日、群馬県の榛名モーターランドで、「第8回バリアーフリーカート走行会」が行われた。この催しは事故や病気により下肢に障害を持つ人でも、カートを操る楽しさを知ってもらおうと、96年から同地で開催されているもの。
当日は足でアクセルとブレーキを操作する通常のカートのほか、ステアリング下に取り付けられたレバーにより手動で同操作ができるカートが用意された。これにより下半身が使えなくても、健常者と同様にサーキットを走ることができる。
これらブレイングカート(排気量50cc)はライセンスなしでも運転が楽しめるため、健常者はもちろん下半身が不自由な人にもおすすめだ。イベントを主催する 北関東オ

ーエックスエンジニアリングのサポート態勢はしっかりしているから、ハンディキャップのあるひと、積極的にカート走行の門を叩いて欲しい。
走行会自体は96年から実施されており、2001年4月には同様の第9回イベントが開催される予定。近い将来には榛名以外でもイベントを実施したいとしている。
12月17日の日曜日には、「ゴールデンカートトロフィー 榛名シリーズ」の中のF H(フォーミュラハ)ンディーキャップクラス(排気量100cc)の00年の最終戦(年間6戦開催)も行われる。体が不自由だけれど、カートに乗ってみたい、そんな興味のある人は一度観戦に行ってみてはいかがだろうか。